

コーナー展 品川、桜花爛漫—江戸時代の花見と観光—					
期間	令和2年3月21日（土）～9月27日（日） 109日間 ※4月4日（土）～6月1日（月）は新型コロナウイルス対策による臨時休館				
会場	小講堂				
有料観覧者	一般 1,751	小中 235	一般団体 0	小中団体 0	有料計 1,986
無料観覧者	区関係 131	区内小中 360	招待 18	高齢者 464	無料計 973
					総 計 2,959

【開催趣旨】

1700年代に入り、江戸時代の品川に「桜の名所」が形成され始めた。八代将軍徳川吉宗が隅田川堤や中野・飛鳥山とともに園地として一般に開放した御殿山や、創建年代が古代・中世に遡る大井の寺社などに多くの桜が植樹され、一帯が観光地となった。桜の名所が品川の地に定着した背景には、交通と物流の要衝であり人びとの往来が盛んであったこと、江戸の南郊で海を望む台地が広がっていたこと、将軍ゆかりの地が点在すること、といった理由が想定される。

江戸時代の品川に咲いていた桜の多くは、都市化や空襲などにより失われたが、大井の西光寺と上大崎の清岸寺に残されている。平成28年（2016）4月以降、品川歴史館では西光寺の児桜をはじめ数種類の桜をアクリル標本にしてきことから、江戸時代の桜の名所・品川を紹介するコーナー展を開催した。

また、品川歴史館ホームページで展開中のおうちミュージアムと連携し、解説動画を作成、公開した。